

この世に銀幕がある限り……

— 映画研究会 —

総合科学部学生 雨 森 賢 一



19世紀後半、フランスのリュミエール兄弟が映写機を発明したその日から映画の歴史は始まった。以来、今日まで約1世紀にわたって、映画は我々の精神生活に溶け込み、その魅力は世界中の人々をとりこにしてきた。我々は、チャップリンの喜劇を観て笑い、「禁じられた遊び」に涙を流し、「誰が為に鐘は鳴る」のバグマンに魅了され、ゴダールやカラックスの新鮮な映像に驚嘆し、「スターウォーズ」の壮大さに興奮してきた。これ程まで我々の心捕らえて離さない映画の魅力とは何か……。

我々映画研究会は、そのような体験をしてきた者が集まり、活動を共にしているサークルである。部員は今年の1年生の大量入部により30名近くまで膨れ上がり、増々活気づいている。最近では、その1年生の大きな力により、長年停滞していた8ミリ映画製作に積極的に取り組むようになり、学園祭に自主上映会を主催するまでに至っている。

映画を好きな者同志が集まり、そのすばらしさについて語り合い、それに一歩でも近づき、そしてその魅力を自ら創り出すために映画製作をする。これが映画研究会の姿である。

と、堅い話になったけれど、要は映画好きの人間が集まって何かやっているとこのサークルで、本当は気楽な(いい加減な)サークルなのである。映画が大好きなあなた、そして映画を作りたいあなた、ぜひサークル棟2階の映研BOXへ来られたし(女子大歓迎)。

広島大学室内合奏団

法学部学生 土 前 川 直 樹(団長)



はじめまして、広島大学室内合奏団です。私達は通常、総合科学部正面から見て左にあるサークル棟2階の第2練習室で早朝から夜の11時まで一日中楽器を鳴らしている団体として多くの人々に理解されていると思います。そういった私達、通称室オケのことをもう少し詳しく紹介していきましょう。

私達「広島大学室内合奏団」は、昭和38年2月にカルテット編成で創立されました。管楽器や打楽器のない弦楽器だけのオーケストラとしてフルオーケストラにはない独特の味わいを持ち、室内楽として栄えたバロック音楽中心のレパートリーで20数年間活動してきました。また、近年の団員増加に伴い、大編成による近代・現代の音楽にも取り組んでいます。

主な行事としては、まず年3回の部内演奏会があります。これは各人好きな曲にソロあり、カルテットありの自由な形で臨み、皆で聴き合い音楽の幅を広げようと努めています。秋には、県内の小・中学校を訪れて小演奏会を開いております。

そして、それらの総決算として12月に定期演奏会があります。室オケは、一年間この2時間あまりの演奏会を中心に動いており、団員一同全力を投じております。

こういった私達も他の音楽系サークル同様、いやそれ以上の音楽に対する情熱をもっております。どうぞ、私達の演奏を聴きにきて下さい。私達と一緒に音楽の喜びを分かち合いましょう。